

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100174		
法人名	株式会社シティ・プランナー		
事業所名	フレンドニヶ辻		
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10		
自己評価作成日	平成30年10月26日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhvu_detail_2017_022_kani=true&JiqvosvoCd=2970100174-008&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になるとできないこともたくさんありますが手助けがあれば出来る事もたくさんあります そのためには その人としっかり向き合い 職員 家族様との情報の共有化をはかり いつでもどこでもその人らしい生活ができるように努力しています 積極的に地域との交流をはかり在宅での生活が継続できたらと開かれたグループホームにしたいと思っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は昔ながらの住宅街に立地し、徒歩1分の最寄りの駅周辺にはスーパーや個人病院などがあり日々の生活に困ることはない。又事業所の西は指呼の間に垂仁天皇陵があり、南には徒歩圏内に世界遺産の唐招提寺などがあり、歴史的な長閑な田園風景が広がっている。在来工法の日本家屋(古民家)を改修した事業所には、広い中庭があり季節の草花が楽しめる利用者の寛ぎの空間になっている。職員は利用者の自立を促す支援を心掛け、洗濯ものを畳んだり、お皿拭きなど利用者ができることは手伝ってもらい、3度の食事は利用者として手作りし家庭的な雰囲気の中で食事を利用者と一緒に行い、利用者の笑顔の絶えない支援に日々努めている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げいつも目につくようにしている。職員会議等でこの理念をもとに意識の統一を図り日々の介護で実践している。	法人が目指す理念や運営方針は、玄関に掲げ日々支援の中で確認するようにしている。理念に基づいて「いつでもどこでもその人らしさを発揮できる場面をつくる」を事業所独自の目標として、家庭的な環境の下で自立を促す支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入居者の方々も一緒に参加させていただき交流をはかっている。夏祭りや避難訓練などに参加していただきグループホームの活動の意義を理解してもらっている。	自治会に加入し、地域の避難訓練や秋祭りに参加したり、事業所の夏祭りには地域の方に参加を呼びかけ交流を図っている。公民会で開催されている地域の歌の会に利用者が参加したり、近所の方が折紙を教えに来られたり日常的に地域交流が持たれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者らのくらしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる。中庭を生かして梅祭りなどを開催し地域の方々も一緒に楽しんでもらっている	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括支援センター、家族様にも参加して頂き2ヵ月ごとに開催している。サービス向上に生かせるようにスタッフ会議でも職員全員に報告している。	運営推進会議の開催日を偶数月の第三金曜日に定例化し、自治会長・地域の班長・地域包括支援センター職員・民生委員・利用者・家族代表等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では、事業の現状や活動報告を行い、より良い介護方法など建設的な意見交換を行いサービスに活かしている。	事業所の実践経験を活かした認知症ケアや身体拘束などの課題についての情報発信の場として運営推進会議が地域の拠点となることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの現状を報告したり指導してもらっている。また保護課での受給の方を市と連絡を取って受け入れている。	市担当者に運営推進会議の議事録や「事業所だより」を届けている。社会福祉協議会職員が月1回訪問しており、生活保護や介護保険等で不明なことを相談したり、事業所の取り組みや利用者の近況を報告して行政との連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時にも身体拘束を行わないことを説明させて頂いている。職員全体が身体、拘束のない暮らしを実践している。	日中玄関に自由に出入りができる状態であり、外出願望の方には適宜の声掛けや付き添い外出などで対応し拘束感のないよう努めている。身体拘束についての研修を行い、身体的拘束等適正化対策委員会を設置し言葉による拘束にも注意し、身体拘束をしない介護を周知徹底している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通して学びその内容を職員に説明・教育している。事業所中で虐待行為をしたことはない。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学びその内容を職員に説明・教育している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を文書で説明している。、一方的にならないように、理解いただけなかった疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の思いは日々のコミュニケーションの中で聞くようにしているそれらをスタッフ会議で話し合い入居者様の思いにこたえるようにしている来訪時には意見を聞く機会を設けている	訪問される家族が多く、訪問時には声をかけ意見や要望を聴くよう心掛けている。利用者の思いや希望は日々の会話や生活の中で把握するように努めている。家族の意見をとり入れた「音楽に合わせて廊下を歩こう」が利用者の日課になっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には面談を行い、苦情や不満などをくみ取りサポートしている。職員の意見や要望を聞いたり会議の中で話しあっている。	職員の意見や日々の気付きを適宜にメモ書きにして入れる容器(缶)があり、月1回の職員会議で話し合い職員の意見の統一を図っている。管理者は日々の活動の中で折に触れ職員の意見を聴くようにし、又年2回個別面談も行って職員の意見がより良いサービスに結び付くよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員からの相談を受けている、重要性がある場合はマネージャーにもアドバイスをもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ専用のチェックリストを用いて、OJTをすすめている。OJT指導員も指導にあたり職員のスキルアップを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段から他施設だけでなく、近くのデイサービスにも足を運び、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には利用を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なこと要望をよく聞くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には利用を前面に推し進めるのではなく、家族の困っていること、不安なことをよく聞くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談があるときの殆どはグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでよいのか、見極めるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付けを手伝ってもらったり、花の水やりをやってもらったりしている。折り紙のおりかた、食事のメニューなど教えてもらうようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、「1カ月に1回はスタッフからの一言通信(ご様子をまとめたもの)・写真・笑顔便り」を送付し、本人と家族のきずなを大切にまもっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等なじみの人との交流を支援している、なじみの店や場所へスタッフと出かける時もある。地域の高齢者学級や編み物教室へ通う方もある。	公民館の高齢者学級に参加したり馴染みの美容室やお店に行き知人と旧交を温めている利用者、又実家へ泊りがけで帰る利用者もある。家族や知人が訪問し易い環境づくりに努め、電話の取次ぎなど思い出や馴染みの場所の関係を断ち切らない支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大家族のような生活の中で自然に役割分担ができていてその人らしく生活されている。トラブルが出そうなときは必ず見守りを行っている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じグループ内の多施設に移られた方もいるがスタッフは時々顔を見にいかせてもらったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意見や思いにそった暮らし方をして頂いている。その方の生活歴や習慣も掘り起し、その人らしい個性を尊重している。	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの希望や思いを聴くようにしている。家族から聴きとった情報なども参考にして服装(おしゃれ)を褒めたり、利用者の行動や表情等で思いや意向の把握を心がけ、これらの情報は職員会議でとりあげ共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成して、生活歴・趣味・好みを把握している。ご家族様やご友人からの昔エピソードを聞き出してケアに活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子を記入しており、スタッフ間で情報共有している。ケアカンファレンスを行い申し送りをしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者様の意見や要望を聞き、家族様の面会時には積極的に意見をうかがうようにしている、ケア会議でスタッフ全員で話し合って情報を共有し介護計画を作成している。	職員は、日々利用者との会話の中で、本人のできること・楽しみは何かを確認するよう努めている。6ヶ月ごとに利用者、家族とカンファレンスを行い、ケア会議で職員の意見を取り入れ「出来ること」を取り入れた介護計画を作成し、必要があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用意して日常生活の様子や、バイタル食事摂取量排泄状態ドクター往診時の記録をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて家族と相談し家族のかわりに通院介助や受診の便宜を計っている。グループ内の有床診に移った後グループホームにもどってこられた方もおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回公民館の歌の会に参加している、近所の方が折り紙のおり方を教えにきてくれる、地域交流の中で入居者様の豊かな暮らしを送れるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回内科往診を受けている。精神科眼科等の受診が必要になった場合も家族に連絡を取り希望があれば受診するようにしている。	利用者全員が事業所の協力医を主治医にしており、2週間に1回の訪問診療と随時の往診にも対応している。歯科医の往診と月1回皮膚科の往診もあり、週1回訪問看護師による健康管理も行われている。協力医で対応できない精神科や眼科等の受診は原則家族に付添をお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期訪問と24時間の連携体制により入居者・職員は安心して相談できる往診医とも密接に連携がとれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や管理者が定期的に訪問し状態の把握に努め退院時に家族医療機関フレンドとのカンファレンスを行えるように関係づくりをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し重度化終末期に入る前に往診医看護師職員がご家族とカンファレンスをおこない方針を決めている	事業所のハード面からも看取り体制が取れず、重度化した場合は主治医・看護師が家族に説明を行い、医療機関で適切な治療を受けて頂くこととしている。この方針を利用開始時に説明している。看取りの事例はなく、職員研修も行っていないが、看取りに関しては前向きに取り組む姿勢を持っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しケア会議の中でも話し合い周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行っている、地域の避難訓練にもスタッフと一緒に入居者様も参加している、地域の方の協力依頼も頂いている。	利用者も参加して年2回避難訓練を行っており、地域の方や民生委員の参加があり、建設的な意見も頂いている。また、年1回の地域の避難訓練にも利用者と職員が参加して地域との協力体制が出来ている。事業所はスプリンクラー設置は済みであり、飲料水などの備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性・人格を尊重した言葉をかけ対応をし入居者に共感するようにしている。入居者の方が選択できるような声かけを行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、敬意を持った言葉づかいを心掛け、馴れ合いにならない様に努めている。排泄支援でもさりげなく誘導する等誇りやプライバシーに配慮して、無理強いをしない自然な支援をしている。居室は利用者の家と考え必ず了解を得て入室している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択・献立の希望をお聞きしている、洋服を見せて選んでもらったりテレビやチラシを見て買い物に出かけたりしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は決まった時間に縛られるのではなく入居者様のペースに合わせて行っている。居室で過ごされている方もいるが定期的に声をかけに行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容される方と家族様と一緒に行きつけの美容室に出かけられている方がいる。個人の希望による服装や髪型にしているがいつも同じにならないように声掛け支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みに合うもの希望のあるものにして季節感も重視し、食事の準備あと片付けも一緒にしているお誕生日や行事の時はリクエストを聞き一緒にメニューを決めている。	3度の食事は事業所で手作りし職員も一緒に食卓を囲んでいる。利用者の要望を聞き、メニューを決めて利用者と協力して家庭的な食事を作り、ちらし寿司を作ったり、お皿ふきを手伝ってもらうなど利用者の力を活かす工夫もしている。出前料理を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー、必要水分量、栄養バランスをおよそ把握している。必要な水分を摂取できるよう好みの飲み物やゼリーを作り支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き誘導と必要な方には介助を行っている。痛みや治療が必要な方には家族に連絡を取って受診の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、トイレ誘導を行うことでできるだけトイレでの排泄を促している。誘導介助はさりげなく行っている。特に失禁時には周囲の方々にも気を配り声掛けに考慮している	職員は利用者一人ひとりの排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、適宜なトイレ誘導を行い自然排泄を促しおむつの使用を減らす取り組みを行っている。夜間のみおむつ使用の利用者が2名いるが、昼間のおむつ利用者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	、ヨーグルト、果物、野菜等の摂取に努めている。できる方は散歩と運動を毎日している。中庭を見ながら廊下を歩いてもらっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく2日に1回のペースでゆつくり入浴して頂いている。いろいろな入浴剤をいれて香や色を楽しんでいただいている。	2日に1回の入浴を基本として、午後から30～40分かけて職員とゆっくりと会話をし入浴を楽しんでいる。色々な入浴剤も用意している。便失禁など必要時には随時シャワー浴も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で編み物をしたり食事づくりレクリエーションなど個々に合った生活のリズムをつくるように配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を勉強し服薬支援の方法に変更はないか確認している。症状に変化があれば記録し医師に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の取り入れ、食事の手伝い、など能力に応じて役割分担している。楽しみながら気分転換できるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公民館行事や秋祭りなど地域の行事に参加している。家族と外出されたり花を買ってきて中庭に植えたりして楽しんでおられる。	職員と一緒に近くのスーパーに食材の買い物に出かけたり、近所に回覧板を届けたり、地域とのつながりも大事にしている。敷地内の中庭で季節ごとの野菜づくりを手伝ったり、花を植えたりして日常的に外気に触れる機会を作っている。近隣の公園で行われているラジオ体操に参加している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在手元のお金を持っておられる方はいないが、買い物などの際に支払いを職員と一緒にしていただいたり、お金を使うことの支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用をされる際にはスタッフがお手伝いさせて頂き話をしてもらっている。古くからの友人に手紙を書いている方もおられる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングには思い思いに過ごしていただけるようソファを置いて、お気に入りの場所を確保している。入居者様と一緒に季節の野菜や花を中庭に植えている。	季節ごとの草花に触れることが出来る中庭と一体となった共用空間のリビングには四季折々の日差しが差し込み、利用者一人ひとりの似顔絵が飾られて、のんびり寛げる利用者の居場所になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるようソファを椅子を置いてテレビを見たり中庭を見たり、お話をしたり楽しく過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ慣れ親しんだ家具を持参していただき、居室配置も入居者様と家族様が相談し住み慣れた環境に近づけている。	古民家を改修した広さや形状の異なる各居室は、利用者の使い慣れたタンスや椅子などが持ち込まれ思い思いに配置され、家族の写真や趣味の作品や賞状を飾るなど、その人らしく居心地良く過ごせる部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止めや手すりを設置して入居者様の状態に合わせるように工夫している、トイレ表札もわかりやすい文字で表示を掲げている。		